



学生の学習意欲と演習・実践体験の内容についての 検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 芳賀, 均, 大野, 紗依 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00006900

学生の学習意欲と演習・実践体験の内容についての検討

芳賀 均・大野 紗依

北海道教育大学旭川校音楽教育研究室

Consideration about Student's Motivation for Learning and Contents of Exercise and Practice Experience

HAGA Hitoshi and OHNO Sayori

Department of Music Education, Asahikawa Campus, Hokkaido University of Education

概 要

大学の授業等の場面において、学生の学習意欲の高い状態が見られることがしばしばある。演習や実践体験を含む活動の際には特に、学生の学習意欲が高いことを筆者は感覚的に捉えていたが、より学生の学習意欲を引き出す大学の授業づくりの参考にするため、そうした様子の記されたアンケート結果等の資料を蓄積してきた。本稿では、学生の言葉を分析し、授業や活動のどのような内容が学生の学習意欲に関係していたのかを検討した。その結果、大学における学習に学生が目的をもっている場合は役立つ授業を行うこと、目的をもっていない場合は楽しい授業を提供すること、断片的な知識を教授するのではなく学生が価値観や物事の見え方の変容を実感できるようにすることの3点を考慮することで、学生の学習意欲を高め、内容を身に付けねばならない科目については積極性を、資質を養っていくことに資する活動等については自律性を高めながら学習することに近付ける可能性があることが示唆された。また、教員が総合性や教科横断的な視点をもって指導に当たるように配慮する必要性も考えられる。

はじめに

大学の授業を改善していく上でアクティブラーニングが叫ばれ、その考え方は、変化の激しいこれからの時代を生き抜いていく資質・能力を養うべき小中学生を含む学習者の学びをつくる教員側の意識を高めている。座学中心の学習には限界があり、アクティブであることも求められる。そこに関連があると考えられる学習意欲について、「初等・中等教育における学習意欲に関する研究成果は膨大な数にのぼり、かなりの実績をみせているが、高等教育における研究は未だみられないように思われる。（中略）学習意欲（心理学ではこれを“動機づけ（motivation）”の範疇で扱っている）の成果をレビューすることは、今後大学生の学習意欲を研究していく際に、重要な資料となろう¹⁾」という指摘がある。筆者（芳賀）は大学において、学

生の学習意欲の高い状態に触れることがしばしばあり、そうした様子の記されたアンケート結果等の資料を蓄積してきた。演習や実践体験を含む活動の際には特に、学生の学習意欲が高いことを感覚的に捉えていたが、本稿では、筆者の所属する教員養成課程において、より学生の学習意欲を引き出す大学の授業づくりの参考にするため、学生の言葉を分析し、授業や活動のどのような事柄（内容や方法等）が学生の学習意欲に関係していたのかを検討することにした。

1 変化の激しい時代に向けて

大学の授業は、従来、教員が学生に対して一方的に講義をする形式が一般的であった。しかし、断片的な知識の獲得に留まる学習では、これからの時代に適応するのは難しい。これに関することは、中教審の答申²⁾でも以下のように述べられている。

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。

ここでいわれる授業の形は、冒頭で述べた演習や実践体験と関わるものである。しかし、こうした指導方法を焦点の一つとすることについては、注意すべき点も指摘³⁾されてきた。真摯に教育技術の改善に取り組む教員の意欲や姿勢に支えられて、子どもの資質・能力を総合的に育むための指導法改善が重要である一方で、指導法を一定の「型」にはめ、狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始することに陥るという懸念である。特定の指導方法の工夫自体が目的化してしまい、本来の目的を見失って「型」に拘泥する事態を招きかねないとの指摘を踏まえての危惧である。

このことに留意しながら、学生の主体的な学習と、学習意欲と、授業や活動の内容との関連を、学生の視点から捉えてみたいと考えた。また、ここで「学生」というとき、ともすればそれが「学生」そのものではなく、「教員が考える学生」となりがちかもしれないが、あくまで学生の気持ちに寄り添ってみたい。学生が何を求め、どのような学習が学生の学習意欲向上につながるかを検討する。

2 先行研究および関連が考えられる事柄について

2.1 学生の学習意欲および学ぶ意義について

大学生の学習に対する意欲についての先行研究は多いとはいえない。大学の組織や制度、カリキュラム、教授法に関するものはあるが、「学生自身に焦点をあてた研究はまだまだ少ない」⁴⁾ということが指摘されている。

溝上慎一「大学生の学習意欲」⁵⁾では、日米の学生の比較から、日本の学生が勉強していないわけでは決していないことに触れ、文系学生であれば「技術・資格を身につけたい」理系学生であれば「教養を身につけたい」という形で、「大学教育が提供し得ない学習機会を求めている」という指摘がされている。必死に勉強しないと生き残っていけないアメリカの大学生に対して、日本の大学生は、大学以外で学習機会をもつ者

も多い。その背景には、大学の仕組として、「大学の授業は非常に評価を得る機会が少ない (pp.193-194.)」という指摘 (試験で頑張っても「優」がつく程度。その結果によって奨学金をもらえるなどの成果はほとんどみられない。逆に頑張らなくともきちんと出席し、レポートを形だけでも書けば、内容についてはあまり評価されずに単位がもらえる) が現実的に突き刺さっているように思える。「学習者が自ら答えを見出す学習への価値づけ (p.194.)」や「なぜ自分は今まで勉強してきたのか、勉強とは自分にとって何だったのか、なぜ自分は大学にいるのか、大学でなければならなかったのか、等を自分に問いかけてみる (p.194.)」など、学生の特性、様々な意味での特徴に応じて考えることが重要であるといえる。「価値」ということがキーワードになりそうである。

また、大学の講義について、学ぶことに対して意義をどのように感じるかも重要な視点である。伊田勝憲「教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ像の検討——自我同一性、達成動機、職業レディネスと課題価値評定との関連から——」⁶⁾には、「自ら学ぶという姿勢を身につける上で、学ぶことに自分なりの意義を見出すことが重要であろう (p.367.)」との指摘がある。進路目標を明確にもっている学生とそうでない学生では、「利用価値」か「学習の面白さ」という具合に求めるものが異なる。学習者の進路目標と学習内容との関係性により、自律的な学習動機づけ像が異なり、望ましい動機づけを固定的に捉えることの危険性が示唆された (p.367.)」との指摘もある。一斉授業による大学の授業、それも講義形式のものに関して、個に応じた指導が行い難い場合については、せめて、社会に出て教員を含まいずれの職業に就いても活用できると学生が思えるような内容を提供したいと筆者は考える。

以上を踏まえると、学生にとって価値を感じる授業や活動が望ましく、大学における学習に学生が目的をもっている場合は役立つ授業を行うこと、目的をもっていない場合は楽しい授業・活動を提供することが一つの指針になると考えられる。

2. 2 生涯学習や主体性との関わり

浅野志津子「学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程—放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から—」⁷⁾では、授業の枠組みとして大切なのは生涯学習を考慮することであるという示唆が得られる。それは「学び続ける教師」を育てることでもある。資格を取るためとしての大学での学習に留まれば、それが単なるハウツー的な学習に過ぎず、一生学び続ける教師を育てることにつながらない。

『自己向上志向』の学習動機は青少年期の学習不充足感に端を発し、仕事上の挑戦、すぐれた人との比較を経て強められ『継続意志』につながるとの指摘 (p.13) は、筆者が学生と実践した「アウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏の取組」において実感したことと重なる。音楽を専攻する学生は、演奏については十分に指導も受け、かつ、行うことができる。しかし、子ども向けの啓発的な演奏・演示をする上では自身の課題に多々気付かされる。そこに同行するプロの演芸家と共に舞台を務めるうち、上達への意欲と、次の実践への関心が高まるという変容が見られた事例⁸⁾である。

その際、実践しながら実感していく日本の学生の特性 (「明確な目標に向かっていく達成動機を持つアメリカ人大学生と、達成成果ではなく現在の遂行過程を重視する日本人大学生との文化差 (p.14.)」) に配慮することや活動の環境を整えること (「整った環境・勉強する雰囲気・学習を応援してくれる人がいるという状況に身を置くことが効果的 (p.21.)」) という指摘) を考慮することが重要といえる。そして、「将来、生涯学習へ参加する生徒・学生を育てるためになるべく早い時期に学習者が学びたい課題を追求する経験を持ち、自己を高めようとする向上心を持ち、学習が奨励される状況を享受するように配慮すること (p.21.)」を重視すべきであるとされる。

さらに、畑野快・溝上慎一「大学生の主体的な授業態度と学習時間に基づく学生タイプの検討」⁹⁾では、

授業外学習を教員が促すことは好ましくなく、学生を類型化して当てはまる仕組みをつくるのが指摘されている。「教員が授業外学習時間の増加を強調するように授業をデザインすることは、大学生の主体性を奪う可能性はないだろうか (p.13.)」という鋭い問いから、「主体性」という用語の「積極性」と「自律性」との混同に気付かされ、この点を教員が留意すべき点であると筆者も考える。文部科学省が重視する主体的な学びには2つあり、1つは授業の予習・復習を主体的に学んでいくことであり、もう1つは予測困難な時代においても自ら目標を立てて学んでいくことであるが、前者は与えられた課題に対する学習者の「積極性」が強調され、後者は課題そのものを自ら設定する「自律性」が強調されている点で異なるというのである。前者が強調されることはあるが、「自分自身で目標を立て、学んでいくことができるからこそ、予測困難な状況であっても主体的に学んでいくことができる (p.15.)」ことを重視すべきであると考えられ、学生のタイプに応じて、サポートしていくことが好ましいといえる。以上から、生涯学習に関わる側面を意識したとき、内容を身に付けねばならない科目については積極性を、資質を養っていくことに資する活動等については自律性を引き出しながら行う授業・活動を提供することが一つの指針になると考えられる。

2. 3 授業方法について

授業方法については、吉澤隆志・松永秀俊・藤沢しげ子「授業形式の違いが学習意欲に及ぼす効果について—グループディスカッション授業の効果—」¹⁰⁾で、学生の学習意欲の低下に対して、学習意欲を維持・向上させる授業方法の一つの取組として、グループディスカッション授業について述べられている。従来の授業においては、教員が一方的に学生に知識を伝達することが多くなりがちなことと、「学生の中には教員の言うことは常に正しいとの思いがあるため、伝達された知識に対する検証能力の低下も考えられる (pp.372-373.)」ということが指摘されている。グループディスカッション授業においては、「グループ内の学生同士での交流を促すことができる。また、自分と異なる知識や視点を有する他者との相互作用の中で試行錯誤しながら答えを導く過程が、学習意欲の向上に繋がると考える (p.373.)」として、「従来授業と比較した際に、内発的動機づけを高める効果をもたらす授業の展開が可能であると考えられる (p.373.)」という。

さらに、安東輝次『持続的な学びのための大学授業の理論と実践』¹¹⁾では、「意味と理解を促す深いアプローチ」と「想起と再生を重視する浅いアプローチ」のいずれのアプローチも重要であり、達成動機ということを考えれば、浅いアプローチで達成度を上げて、学習意欲を高めてから、深いアプローチに展開するという形もあってよいとある。問題は、いかに浅いアプローチから深いアプローチへ学生を導くのかということであり、その打開のヒントとして「学生が学びに関わる」ということにある可能性が指摘されている。

以上から、断片的な知識を教授するのではなく、学生が価値観や物事の見え方の変容を実感できることを考慮しながら、学生が学びに関わる授業・活動を提供することが一つの指針になると考えられる。

3 総合性にヒントがあるのではないか—「専門分野」という壁—

前節までを踏まえつつ、筆者は、「専門分野」という壁を乗り越えることが鍵の一つではないかと考える。幼稚園時期には、まさに総合的な活動に没頭していた子どもたちが、小学校に上がり、いきなり算数なら数学、図画工作なら美術等といった親学問を頂点に置く「教科」に仕切られて学習することになる。しかし、一体「教科」とは何であるか確認してみると、今日まで、教科等の構成の在り方なり、教科の性格について頭からとりあげた論文なり書物はなかったと高浦勝義は指摘¹²⁾する。その上で、戦後の新教育の影響を強く受け、子どもを子どもとして尊重した教科の在り方と、大学で行われている学問研究や科学研究に範を求めたものを高等学校→中学校→小学校と下ろしてくる教科観とがあるという。すなわち、我が国で「教科」

というとき、その見方には、子ども中心と大人中心の二つの教科観があり、それによって「教科」の見方なり在り方が大きく異なるということである (p.24)。「知識」は、従来は、過去の既に研究され蓄積されてきた結論としての知識 (広くは文化遺産) をどれだけ知っているかということが重視されてきた。だから、そうした断片的な知識は、子どもにとって、自分とは関係がない、あるいは薄いものとして、次々と暗記していくことになり、生活と学校、知識と行動の乖離につながっていくのである。「教科」の学習の内容は、「科学・学問を基礎にするといわれながら、現実にはそこで創造された“結論や結果”が一面的に重視され、このため、子どもはそれらを覚え、記憶する以外に手がなくなることになる (p.46.)」¹³⁾ 状況に陥ってしまう。その背景として、小学校入学の早い段階からいきなり分科・専門化した内容の学習がスタートし、子どもは、「それぞれの境界なり分科の必要なり相互の関係がつかめないままに、初めからそのようなものとして、内容を次から次へと、個々別々のものとして学習しなければならない (p.48.)」といえる。「教科」は、こうした側面をもち、子どもの視点からの学びに合致していない側面がある。

そして、このことは、大学においても同様のことがいえると筆者は思うのである。学問の専門家である教員と、その内容を学ぼうという強い意志をもつ学生との組合せであればよいが、そうでない場合、大学の学習は学習者中心の視点とは大きく異なることになる。大学の授業や専攻分野における多岐にわたる様々な学習や活動を行うのは一個の人間であるその学生であって、それに対しては、教員が総合性や教科横断的な視点をもって指導に当たることに配慮すべきである¹⁴⁾と思うのである。

4 本稿で行う検討の内容と方法

学生が実際にどのような印象をもって学習や活動に取り組んでいたかについて、記録から分析する。資料は以下の通りである。

- ・集中講義「コミュニケーション実践」におけるレポートの記述 (H30.4.28-5.1. 受講者11名) = 演劇的手法によるコミュニケーション力向上に資する体験的な演習
- ・積極的にボランティア活動に取り組んでいる学生に対するインタビューへのメール回答 (H30.3.21.およびH30.12.6.の2名) = 出前授業や地方自治体の学習サポート事業等のボランティア参加
- ・アウトリーチによる音楽演奏「道北おとほけキャラバン」参加後の感想文 (H30.5.25-29. 参加7名) = 〈2.2〉で触れた、プロの演芸家と共に行う地域貢献としてのアウトリーチによる音楽演奏の取組
- ・大学の授業「小学校音楽科教育法」授業評価アンケート記述の内容 (H26年度後期)、および、15回の講義におけるプリントの自由記述 (H27・29年度後期) = 学習意欲を高めるための工夫に取り組みながら実施している教員養成課程の授業¹⁵⁾

以上の資料を、①「『意欲』および『自分の目指す姿』に関する記述」、②「『学習に対する楽しさ』に関する記述」、③「『理解』『上達』や『気付き』の喜びや実感に関する記述」、④「『課題』に関する記述」の4つに分類した上で、SCAT¹⁶⁾による分析を行う。

5 学生のコメント等の記述資料の分析

〈4〉節に述べた方法による分析結果を、以下 (〈5.1〉～〈5.4〉の各項) に列記する。これらの結果からは、〈2〉および〈3〉節において整理したことを裏付ける内容を見て取ることができる。〈はじめに〉で触れた、筆者が学生との日常において感覚的に捉えていた、演習や実践体験を含む活動の際には特に学生の学習意欲が高いということが、分析を進めるうちに、明らかになっていった。

5. 1 「意欲」「自分の目指す姿」について

「意欲」「自分の目指す姿」に関する記述とSCATによる分析結果は以下のようである（原文ママ）。

●コミュニケーション実践（学生による記述内容と SCAT 作業） ※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

テキスト（原文ママ）	(1) テキスト中の注目すべき語句	(2) テキスト中の語句の言い換え	(3) 左を説明するようなテキスト外の内容	(4) テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	(5) 疑問・課題
また、悪意のある言葉は「なにくそ！」って反発できるけどそうではない言葉は反発しきれないけど、モヤモヤする気持ちがたまっていって良くないことにつながるのではないかと思うので気をつけたいです。	モヤモヤする気持ちがたまっていって良くないことにつながるのではないかと思うので気をつけたい	日頃の経験からの気付き	日常生活への活用	日常生活との関連、言葉の使い方	
明日からの講義ももっと自分の見方、考え方が変わったり改まったりするよう一生懸命取り組みたいと思います。	もっと自分の見方、考え方が変わったり改まったりするよう	考えの改め、反省	価値観の変容	講義の取り組み方、価値観の変容	
相手と話したり関わったりする時は、絶対にカテゴリ分けしたり、肩書きで見ないというのは難しいので、そういう風に見てしまっているということ意識した上で相手と関わるようにしたいと思いました。	意識した上で相手と関わるようにしたい	周りに目を向ける、他者との関わり方、やりたい	認識の変容、意欲、主体的	他者との関わり方	
先生がおっしゃっていた指示を出す時の話し方や、初対面の人と話すときの接し方など、少し工夫することでイメージが変わると思っていますので実践してみたいと思います。	少し工夫することでイメージが変わる／実践してみたい	試み、やりたい	認識の変容、意欲の向上、主体的、現場への活用	コミュニケーションの工夫	
本日の講義を受けて、芳賀先生からヒントをもらいながら自分で頭を使って、このことはどうしたら将来教員になった際に生かせるだろうと考えさせられることばかり	芳賀先生からヒントをもらいながら自分で頭を使って／どうしたら将来教員になった際に生かせるだろうと考えさせられる	考える、自分事として捉える	思考力、主体的、将来の展望・希望	自分で考える、将来の展望	
今後は今まで以上に他人を形成する機会や立場が多くなると思うので、尚更経験、引き出しを増やし、固定観念に縛られない考えを身につけて、その人を前に生かせるような人間になりたいと思うと同時にその力を身につけるための学びをししていきたいと心から感じました。	経験、引き出しを増やし／固定観念に縛られない考え／その人を前に生かせるような人間になりたい／力を身につけるための学びをししていきたい	知識や技能の獲得、視野を広げる、やりたい自分、学び方を考える、やりたい	幅広い教養、思考の柔軟性、目標とする人間像、意欲、主体的	将来の展望、なりたい自分	
今後自己を磨き、生徒たちに誇れる人間になれるようになりたいと思いました。	自己を磨き／生徒たちに誇れる人間になれるようになりたい	自分磨き、人から見た自分、なりたい自分	自己の発展、他者との関わり、目標とする人間像	なりたい自分、将来の展望	
この活動でも、今まで意識していなくて初めて意識したこと、初めて感じたことが沢山あったので、この気持ちを大事にしていきたいです。	今まで意識していなくて初めて感じたこと／この気持ちを大事にしていきたい	新しいことに目が向く、自分の気持ち、したい	未知との遭遇、思いの尊重、願い	新たな気付き	
頭を柔軟につかうことを忘れないようにしたいと思いました。	頭を柔軟につかうことを忘れないようにしたい	物事を考える、自分の中に刻む、したい	思考の柔軟性、強く認識する、願い	柔軟性	
足りない部分を言葉で補ったり、相手の世界観に合わせて調節していく技術を身に付けていきたいです。	足りないものを身に付ける、やりたい	足りないものを身に付ける、やりたい	自己認知・反省、技術の習得、意欲、やる気	コミュニケーションの工夫、他者との関わり方	
世界観を作る活動では、教育現場との関係性について考えを深めたいと思いました。	教育現場との関係性について考えを深めたい	今の経験と将来の結びつき、考える、やりたい	身になる学び、深い学び、意欲、主体的	将来の展望	
俗に言うノンバーバルコミュニケーションの力はすごいと感じた。それと同時にこの力を身につけたいと感じた。	ノンバーバルコミュニケーションの力はすごい／それと同時にこの力を身につけたい	学んだことへの感動、やりたい	物事への関心、感動、感情と意欲の結びつき、意欲、主体的	コミュニケーションの工夫	
1年目の時も人前で自分を表現する際に抵抗や恥かしさがあったと思うようにいかないことも沢山あり、その度に後悔することがありましたが、この講義を受けた後は謎の自信ができました。	謎の自信ができました	自分でもよくわかっていない、やる気が湧く	潜在意識、本当の気持ち、意欲	実行する勇気、自信	
これからももっと沢山のことを経験して学びたいと思いました。	もっと沢山のことを経験して学びたい	実感して考える、やりたい	考える力の増大、意欲、主体的	学ぶ意欲の向上	
これからあらゆる場面で自分の考え方や感じ方、振る舞い方が絶対変わると思います。	あらゆる場面で自分の考え方や感じ方、振る舞い方が絶対変わる	日常生活への影響、変化が感じられる	価値観の変容、確信	価値観の変容	
いきなり言われた言葉に即興で対応する。これは授業などの学校現場で起こりうることです。したがって、即興で対応できるようにしたいです。	学校現場で起こりうること／対応できるようにしたい	今の経験と将来の結びつき、なりたい	身になる学び、目標とする人間像	将来の展望	
学校現場は思春期や様々な発達段階の生徒たちがいるため、本当に気をつけて生徒たちと接していきたいと思いました。	本当に気をつけて生徒たちと接していきたい	強く思う、やりたい	痛感、意欲、主体的	他者との関わり方、将来の展望	
この講義を受けたことによって今後そこを磨いていくよう過ごしていきたいと思えます。そして、自分の情熱が生徒たちに伝わりお互い信頼関係を築けるよう、自分のコミュニケーション能力を上げ、生徒たちにも相手を思いやって話を聞くような気持ちを育てていきたいし、共に成長していきたいです。	今後そこを磨いていくよう過ごしていきたい／生徒たちにも相手を思いやって話を聞くような気持ちを育てていきたい／共に成長していきたい	自分を磨く、やりたい、他者に影響を与える、将来への活用、共に成長する	自己の発展、意欲、主体的、他者との関わり、他者への尊重・関心、将来の展望・希望、成長し続ける教師	なりたい自分、将来の展望	
これからの自分の人生に生かして行きたいです。	自分の人生に生かして行きたい	日常や社会生活への活用、したい	将来の展望、願い	生活への活用	
正直、自分の理想の教師像も以前より固まって、やる気がみなぎっています。	自分の理想の教師像も以前より固まって、やる気がみなぎっています	将来のこと、以前の自分との比較、やる気が湧く	将来の展望・希望、客観的視点、意欲、自信	なりたい自分、自信	
今後この経験をともに柔軟で多様な角度からの思考ができればいいなあと思いました。	この経験をともに柔軟で多様な角度からの思考ができればいいなあ	経験を生かす、柔軟に考える、様々な角度から物事を見ることができ、なりたい	実践の重要性、柔軟な思考、多角的思考、目標とする人間像	思考の柔軟性	

●なぜボランティアを行うのか（学生による記述内容と SCAT 作業）

というのも、幼少のころから民謡を習っていた、将来何かの形で役立てたいと思っていたことが大きいのかな、と思っています。	将来何かの形で役立てたいと思っていた	将来への活用、やりたい	将来の展望、意欲、主体的	得意なことを生かす
逆を言えば、自分がやる上でつらいこと、はボランティアとしてあまりしたくない、と思うところがあるのかなと思います。（どちらかという、自分の得意なことをして役立てたいかな、と思うことが多いです）	自分の得意なことをして役立てたい	得意なことを生かす、やりたい	自己有用感の形成、自尊心、意欲、主体的	得意なことを生かす

●小学校音楽科教育法（H26,H27,H29）（学生による記述内容と SCAT 作業） ※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

引き続き、これを活かしつつ音楽のみならず他にも応用しようと思いました	音楽のみならず他にも応用しよう	音楽に限らない、直接学んだこと以外に生かす、やりたい	他教科や生活との相関・合科、意欲、主体的	他教科への応用
苦手な子にも楽しんでもらえるようにしたい	楽しんでもらえるようにしたい	相手のことを考える、やりたい	他者への尊重・関心、意欲、主体的	将来の展望、児童主体
小学校で音楽の授業ができそうな気がしてきた	できそうな気がしてきた	やる気が湧く	意欲	自信
自分が小・中学生の時の鑑賞の授業では、個人的にただ曲をきき、プリントに感想をかいおわっただけだったので、あまりのいいというイメージがないのですが、今日の先生のやり方をきくと、とても良かったのでこれから鑑賞のたのしい授業方法について考えていきたい	楽しみながら学べる、知れる授業だった／こんな授業ができたらいいなと思った	楽しさ、知識を得られる、将来のこと、やりたい	充足感、確かな知識の獲得、将来の展望、意欲、主体的	授業への憧れ
楽器や合奏の指導が難しそうでも出来るかな不安だなあと思っていましたが、今日の講義をきいて、逆にやってみようと思いました。みんなでちがう楽器をつかって大合奏してみたいです！	出来るかな不安だなあと思っていましたが、今日の講義をきいて、逆にやってみよう／大合奏してみたいです！	最初は不安だった、やりたい	不安や抵抗感からの脱却、意欲、主体的	授業への憧れ
本来、音楽が苦手ですが、たくさんのひきだしをつくりたいと思いました。	音楽／苦手／ひきだし	音楽が不得意、知識	不得手	音楽に対する教師自身の苦手意識の改善
伴奏が苦手な意識があるので、取り除けたいなと思う。	伴奏／苦手／取り除けたい	ピアノが不得意、克服	演奏技能	授業を行うにあたって必要なピアノ伴奏などの技能
曲の雰囲気をつかめるように楽符を読めるようになりたい。	曲の雰囲気／つかめる／楽符を読めるようになりたい	読譜	専門性	授業を行うにあたって必要な知識・技能
学年があがるごとに授業のレベルがあがっていくうまくつれていくか自信がない、自信がもてるよう、レベルアップを目指したい。	自信がない／レベルアップを目指したい	授業力の向上を目指す	授業法の工夫	子どもにとって楽しい授業をするための授業法の工夫

学生の学習意欲と演習・実践体験の内容についての検討

授業づくりカードはうれしかったです。自分是要領がよくないので音楽にかぎらずいろいろなくふうしたいですね。	授業づくりカード/うれしかった	授業づくりカード、有効	授業内容の選択肢	授業づくりカードにより授業内容の充実
楽しませること、自分自身が楽しく授業を行うことの大切さをこの講義を毎回実感させられる。バランス良い指導計画ががんばろうと思った。	楽しませる/楽しく授業を行うことの大切さ	有意義な授業	充実した授業	子どもにとって楽しい授業をするための授業法の工夫
ただ単に知識を教え込むのみで子どもにとっても良くないし、教師の行いとしても良くない。しかし、ただ単に教え込むという授業を行わないためには、教師側も多く工夫をしなければならない。そのためのスキルを少しずつこの講義で身に付けさせて頂きたいと考えます。	知識を教え込むのみ/教師側も多くの工夫	知識の詰め込み、教師の工夫	授業法の工夫	主要教科同様に音楽を取り扱うこと
配布された授業の内容をまとめたプリントはとてもすごいと感じた。これを参考にしながらも、プリントにないこともしたい。	プリントはとてもすごいと感じた	レジュメ	教材の工夫	学生の理解を図るための教材の工夫
1つの歌の中の特徴が盛りだくさんで、また1つやることに新しいことを知ることができて、発見もあり楽しいし、学習意欲が高まった。	学習意欲が高まった	学習意欲の向上	学力の向上	学生の意欲向上
合唱の指導や指揮についてももっと学びたいと思った。アーバタクトなど、専門的なことをもっと知りたかった。	専門的なことをもっと知りたかった	知識の拡充	学習意欲	学生の意欲向上
とても濃密な授業だった。教員となった際に活かしていきたい。	濃密な授業/教員となった際に活かして	内容が厚い、将来について	没頭できる、将来の展望	将来の展望
他の協奏曲もたくさん聞いてみたい。	たくさん聞いてみたい	学習意欲の向上	学習意欲	学生の意欲向上

●へき地をはじめとする地方における音楽アニマシオンの試み（学生による記述内容とSCAT作業）※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

今回のキャラバンの学びも実際に教員になった時に生かしてやっていきたいです。	実際に教員になった時に生かしてやっていきたい	将来への活用、やりたい	将来の展望、希望、意欲、主体的	将来の展望
教員になったら、学年団などチームで動くことも多くあると思います。その時には、普段からたくさん話し合ってお互いの考えをすり合わせたりすることで、助け合ったりよりよい教育活動をしつづけるようにしたいと思いました。	助け合ったりよりよい教育活動をしつづけるようにしたい	将来への活用、やりたい	将来の展望、目指す人間像	人間関係の構築、将来の展望
これは教育現場だけではなく、これから様々な場面で生かせる事だと思ふので、もっとこの力を高めていきたいです。	これから様々な場面で生かせる事だと思ふので、もっとこの力を高めていきたい	日常や社会生活への活用、したい	将来の展望、能力の向上、願い、意欲	日常生活への活用
これをこれからの実践や自分が教員になった時に生かしていきたいと感じた。	これからの実践や自分が教員になった時に生かしていきたい	日常や将来への活用、やりたい	将来の展望、意欲、主体的	将来の展望
これを踏まえた上で学業などに対する態度を一新しようと思ふます。	学業などに対する態度を一新しようと思ふ	日常や社会生活への活用・変化、やりたい	将来の展望、意欲、主体的	日常生活への影響

【SCAT（割愛した部分を含む）から抽出された内容】

●コミュニケーション実践

ストーリーライン（現時点で言えること）	この講義を受講した学生は、他者と関わる中でコミュニケーションの重要性を感じ、工夫し、価値観に変容が起きている。また、日常生活と結び付けることで危機感を覚えている。将来の展望をもち、なりたい自分に近づきたいという意欲と、そのためにどうするかを考えている。
理論記述	・他者に関心をもち、コミュニケーションを通じて尊重する気持ちが增大している ・なりたい自分のビジョンが明確になりつつあり、講義のみならず日常生活で物事に取り組む姿勢においても意欲が向上している ・教材への関心を高め、コミュニケーションの工夫をして知識を活用している

●なぜボランティアを行うのか

ストーリーライン（現時点で言えること）	この学生は、自分の得意なことを役立てていきたいと考え、技能を生かせるボランティアに参加している。
理論記述	・得意なことを将来役に立てていきたいと考え、実行できる環境がある

●小学校音楽科教育法（H26,H27,H29）

ストーリーライン（現時点で言えること）	・この講義を受講した学生は、児童が興味をもてるような音楽の授業についての知識や自信を身に付けたいと考えている。本講義が楽しみながら知識を得られるものであったため、授業への憧れを抱き、自分が授業をする際の意欲が向上している。 ・本講義を受講した学生は、音楽が苦手だが、本講義を受講し、ピアノの技術や読譜など、専門の知識・技術の向上をしたいと考えている。授業づくりカードなどを工夫して使用し、講義で教わった以外に、自分で様々な授業方法を考案したいと考えている。
理論記述	・本講義で、児童が興味をもてるような音楽の授業についての知識や自信を身に付けたいと考えている ・音楽のみならず、他教科への応用も視野に入れている ・授業への憧れを抱き、自分が授業をする際の意欲が向上している ・ピアノの技術や読譜など、専門の知識・技術の向上が見られる ・自分で様々な授業方法を考案したいという意欲の向上が見られる
さらに追求すべき点・課題	・音楽の何が苦手なのか

●へき地をはじめとする地方における音楽アニマシオンの試み

ストーリーライン（現時点で言えること）	参加した学生は、教員になった際、学んだことを生かしていきたいと考えている。メンバーとの交流から、将来、話し合いや助け合いを通じて同僚などとの人間関係の構築をしていく重要性を感じている。また、日常生活での過ごし方でも意欲が向上している。
理論記述	・教員になった際、生かしていきたいと考えている ・メンバーとの交流から、人間関係の構築の重要性を感じている ・日常生活での過ごし方における意欲が向上している

○コミュニケーション実践：

この講義を受講した学生は、他者と関わる中でコミュニケーションの重要性を感じ、工夫し、価値観に変容が起きている。

また、日常生活と結び付けることで危機感を覚えている。将来の展望をもち、なりたい自分に近づきたいという意欲と、そのためにどうするかを考えている。

- ・他者に関心をもち、コミュニケーションを通じて尊重する気持ちが増大している
 - ・なりたい自分のビジョンが明確になりつつあり、講義のみならず日常生活で物事に取り組む姿勢においても意欲が向上している
 - ・教材への関心を高め、コミュニケーションの工夫をして知識を活用している

○「なぜボランティアを行うのか」というアンケートに対する回答：

この学生は、自分の得意なことを役立てていきたいと考え、技能を生かせるボランティアに参加している。

- ・得意なことを将来役に立てていきたいと考え、実行できる環境がある

○小学校音楽科教育法（H26, H27, H29）：

この講義を受講した学生は、児童が興味をもてるような音楽の授業についての知識や自信を身に付けたいと考えている。本講義が楽しみながら知識を得られるものであったため、授業への憧れを抱き、自分が授業をする際の意欲が向上している。音楽が苦手だが、本講義を受講し、ピアノの技術や読譜など、専門の知識・技術の向上をしたいと考えている。講義時に紹介した授業づくりカード（「歌う」「リコーダーを吹く」「聴く（体を動かしながら）」といった様々な活動をモジュールの形にして、見たり、引き出したり、取捨選択したりして授業を構成するためのカード）などを工夫して使用し、講義で教わった以外に、自分で様々な授業方法を考案したいと考えている。

- ・本講義で、児童が興味をもてるような音楽の授業についての知識や自信を身に付けたいと考えている
 - ・音楽のみならず、他教科への応用も視野に入れている
 - ・授業への憧れを抱き、自分が授業をする際の意欲が向上している
 - ・ピアノの技術や読譜など、専門の知識・技術の向上が見られる
 - ・自分で様々な授業方法を考案したいという意欲の向上が見られる
 - ・△音楽の何が苦手なのか

○へき地をはじめとする地方における音楽アニメーション：

参加した学生は、教員になった際、学んだことを生かしていきたいと考えている。メンバーとの交流から、将来、話し合いや助け合いを通じて同僚などとの人間関係の構築をしていく重要性を感じている。

また、日常生活での過ごし方でも意欲が向上している。

- ・教員になった際、生かしていきたいと考えている
 - ・メンバーとの交流から、人間関係の構築の重要性を感じている
 - ・日常生活での過ごし方における意欲が向上している

主に下線を付した部分からは、授業や活動により、意欲の向上や、大学における学習内容を含めた物事を自分のこととして捉えるようになった様子が見て取れる。

5. 2 「学習に対する楽しさ」について

「学習に対する楽しさ」に関する記述は以下のものである（原文ママ）。

●コミュニケーション実践（学生による記述内容と SCAT 作業） ※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

テキスト（原文ママ）	(1) テキスト中の注目すべき語句	(2) テキスト中の語句の言い換え	(3) 左を説明するようなテキスト外概念	(4) テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	(5) 疑問・課題
午前の部については、特に以下の2つのことについて面白い、興味があると思いました。 1つ目は、遊びのようなことをしている中でも多くのことを学ばせることができるということです。2つ目は、教材（自己紹介等も含む）を工夫することで、生徒の理解度などが変わるということです。	面白い、興味がある／遊びのようなことをしている中でも多くのことを学ばせることができる／教材（自己紹介等も含む）を工夫することで、生徒の理解度などが変わる	楽しさの中の学び、教材が与える影響	自分で学びを得る・発見することの喜び、あそびでの学び、教材の持つ力・重要性、関心の向上	遊びの中の学び、教材研究の意義	
今日1日たくさん活動をして、まず素直に楽しかったです。そして活動を楽しんでいる中で、たくさんことを学びました。	素直に楽しかった／活動を楽しんでいる中で、たくさんことを学びました	楽しさの中の学び	自分で学びを得る・発見することの喜び、あそびでの学び	楽しさの中の学び	
個人的には最初の距離を保ちながらターゲットを追いかけるやつと、マップオブ me がとても楽しくできました。一見してただ楽しくゲームをただしてしたが、どのような意味があって、何を示唆しているかなどとても興味深いものでした。	とても楽しくできました／どのような意味があって、何を示唆しているかなどとても興味深いもの	心が動いている、意図を自分で考える	主体的に取り組む態度、意欲、他人の気持ちの汲み取り、教材研究理解の深まり	教材研究の意義	
明日以降のメニューもとても楽しみです。	とても楽しみです	期待している	関心の向上	講義への期待	

学生の学習意欲と演習・実践体験の内容についての検討

出身地を座る位置関係で把握すると、自分の出身地から見てどこの位置にいた人だ、と思いきりすきかっけになっておもしろかったです。	自分の出身地から見てどこの位置にいた人だ、と思いきりすきかっけになっておもしろかったです。	自分から見た他人、関心への取っ掛かりとなる	他者への興味、関心の発端	他者への関心
今日は昨日より更に楽しかったです。理由は、午後のジェスチャーゲームがとても好きだからです。やってる最中はただ普通に楽しんでいました。	昨日より更に楽しかった／ジェスチャーゲームがとても好きだから／ただ普通に楽しんでいました。	前回より楽しさが増す、好きな活動を行う、純粋な楽しさ	満足度の向上、興味の発端、活動そのものの魅力	活動の楽しさ
人のことについて新しく知れることがおもしろかったです。	人のことについて新しく知れることがおもしろかったです。	他者への関心	他者理解・尊重、話を聞く姿勢、柔軟性	他者への関心
また、二人で会話する中で、パートナーであったEさんの聞き方がとても上手く、会話することがとても楽しかったです。	パートナーであったEさんの聞き方がとても上手く、会話をすることがとても楽しかったです。	他者への関心、コミュニケーションの楽しさ	他者理解・尊重、話を聞く姿勢、他者との関わり方、主体性	他者への関心

●なぜボランティアを行うのか（学生による記述内容と SCAT 作業） ※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

引き出しが多い先生の授業は楽しいと感じており、そのためには日々「学習」が必要だと思いました。	引き出しが多い先生の授業は楽しいと感じており	知識や技術が多い、経験からの学び	知識・技能の獲得、自己研鑽	学び続ける姿勢
私はボランティアなどはまだまだ経験不足ですが、先日の出前授業をはじめ、本当に楽しく取り組ませていただいています。	先日の出前授業をはじめ、本当に楽しく取り組ませていただいています	楽しく取り組める、心が動いている	主体的に取り組む態度、興味・関心、意欲	活動の楽しさ

●小学校音楽科教育法（H26,H27,H29）（学生による記述内容と SCAT 作業） ※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

授業が非常に楽しい。重要なポイントをしっかりと教えてくれる	授業が非常に楽しい／重要なポイントをしっかりと教えてくれる	心が動いている、話の重点の明確さ	主体的に取り組む態度、意欲、自分事となる内容、話し方の技術	授業の楽しさ、ポイントの整理
鑑賞はここまでおもしろくできるのか、と驚きました。ただ聴くだけではなく、自分や友達といろいろ相談したり想像しながら取り組むことで勉強になるし楽しい	鑑賞はここまでおもしろくできるのか、と驚き自分や友達といろいろ相談したり想像しながら取り組むことで勉強になるし楽しい	驚愕する、心が動いている、今までの予想を超える、他者とのコミュニケーション、自分で考える、勉強に取り組む姿勢、学ぶことの楽しさ	新たな発見、主体的・対話的で深い学び、意欲、生涯学習	授業の楽しさ、新たな発見、他者との関わり方
『鑑賞＝おもしろく、つまらない』だったが、1曲をわけて聞かせたり、感じたことを因果関係でつなげたりみんなが参加できるようにするのはとても楽しいと思った	みんなが参加できるようにするのはとても楽しいと思った	全員が参加できる授業	主体的、他者との関わり、授業の楽しさ	新たな発見、他者との関わり方、授業の楽しさ
授業づくりカードはとても参考になりました。伴奏は同じ音でも和音で弾くのか、単音で弾くのかによっても雰囲気が変わるのだなと思った。「シ」だけでも伴奏によって楽しくなると思った。	授業づくりカード／とても参考になりました。「シ」だけでも伴奏によって楽しくなる	授業づくりカード、有効、単音伴奏	授業内容の選択肢、演奏技能	授業づくりカードにより授業内容の充実、授業を行うにあたって必要なピアノ伴奏などの技能
ハ長調の意味があまりなかったのですが、今日の先生のお話をきいてそんな簡単なことだったんだと思って、音楽に対する難しい意識が少しうすれました。またわかりやすい歌詞にかえうたして歌うのがすごくおもしろくていいなと思いました。	音楽に対する難しい意識	音楽に対する苦手意識	不得手	音楽に対する教師自身の苦手意識の改善
リコーダーを教える時には、教師側の都合ではなく生徒のことを考えた授業進行にしないとダメな気がした。楽典を教える時にわかりやすく説明できる力をつける必要があると思った。おもしろいと思いました。	リコーダーを教える時、昔の言葉は現代語訳	リコーダーの奏法、多様な授業内容	専門性、授業内容の選択肢	授業を行うにあたって必要な知識・技能、授業づくりカードにより授業内容の充実
楽典の知識も先生の授業では楽しく学ぶことができました。知識もさることながら、子どもたちに音楽への愛や感性を磨くことを目標としている指導要領のレベルな要求に驚きました。	先生の授業では楽しく学ぶことができます	充実した講義	講師の教授法	学生の理解を図るための講師の工夫
音楽の授業に対する不安感が少しなくなり、楽しく感じました。	不安感が少しなくなり	不安が減る	不安感や抵抗感の低減	不安の解消
全く知らないことを知ることは本当にたのしいと感じました。	知ることは本当にたのしい	未知との出会い、新たな知識の獲得	学問への興味	新たな知識の獲得、学問への興味

●へき地をはじめとする地方における音楽アニメーションの試み（学生による記述内容と SCAT 作業） ※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

演奏等を行っている、素直にすごく楽しかったし、子どもたちの反応が嬉しかった	素直にすごく楽しかった／子どもたちの反応が嬉しかった	純粋な楽しさ、心が動く、相手の反応を知ることができる	主体的に取り組む態度、意欲、他者との関わり、対話的な学び、相互コミュニケーション	活動の楽しさ、児童の反応
初めての経験だったけれど積極的な子供たちや現地の先生方にも助けられて無事楽しく終えることができた。	積極的な子供たちや現地の先生方にも助けられて無事楽しく終えることができた	伝える相手がいる、協力的な雰囲気作り	他者との関わり、対話的な学び、相互コミュニケーション	演奏者と観客の一体感
演奏を聴いてくれている子供たちや先生方が、演奏者である私たちと一緒に音楽を楽しんでいたのではないかと思います。	演奏を聴いてくれている子供たちや先生方が、演奏者である私たちと一緒に音楽を楽しんでいた	伝える相手がいる、一緒に楽しめる雰囲気作り	他者との関わり、対話的な学び、相互コミュニケーション、積極性	演奏者と観客の一体感

【SCAT（割愛した部分を含む）から抽出された内容】

●コミュニケーション実践（SCATから抽出された内容）

ストーリーライン（現時点で言えること）	この講義を受講した学生は、楽しさの中から学びを得ている。他者の新しい一面を知る中で、楽しさを見出している。また、教材に興味・関心を示している。次回以降の講義への活力となっている。
理論記述	・楽しさの中から学びを得ており、他者との関わりにより興味が増大する ・教材に興味・関心を示し、教材研究の意義について考えている ・次回以降の講義への活力となっている

●なぜボランティアを行うのか（SCATから抽出された内容）

ストーリーライン（現時点で言えること）	参加した学生は、活動の楽しさからボランティアに参加している。また、引き出しの多い教員となるために学び続ける姿勢として、参加している。
理論記述	・活動の楽しさから、ボランティアに参加している ・学び続け、自身が楽しい教員だと思われるよう活動している

●小学校音楽科教育法（H26,H27,H29）（SCATから抽出された内容）

ストーリーライン（現時点で言えること）	・この講義を受講した学生は、内容のおもしろさや説明の仕方、話の重点の明確さなどにより、授業に楽しさを感じている。今まで鑑賞の授業は「聴く」だけかと思っていたが、他者と交流したり聴くポイントを明確にしたりすることで、主体的に取り組むことができている。 ・この講義に参加した学生は、授業方法の工夫に楽しさを感じている。また、音楽が苦手でも取り組むことができ、かつ、専門的な知識・技術も身に付くことを実感している。
理論記述	・内容のおもしろさや説明の仕方、話の重点の明確さなどにより、授業に楽しさを感じている ・他者と交流したり聴くポイントを明確にしたりすることで、主体的に取り組むことができている ・授業方法の工夫に楽しさを感じている ・音楽が苦手でも取り組むことができる ・専門的な知識・技術も身に付く

●へき地をはじめとする地方における音楽アニメーションの試み（SCAT から抽出された内容）

ストーリーライン (現時点で言えること)	参加した学生は、観客からの反応や会場の一体感に楽しさを感じている。会場の一体感は、演奏者として自分が音楽を楽しむことで、観客にも楽しさが伝えられると考える。
理論記述	・相互コミュニケーションをすることで、楽しさを感じている ・自分が楽しみ、相手に伝えようとすることで、積極性が増大している

○コミュニケーション実践：

この講義を受講した学生は、楽しさの中から学びを得ている。他者の新しい一面を知る中で、楽しさを見出している。また、教材に興味・関心を示している。次回以降の講義への活力となっている。

- ・楽しさの中から学びを得ており、他者との関わりにより興味が増大する
- ・教材に興味・関心を示し、教材研究の意義について考えている
- ・次回以降の講義への活力となっている

○「なぜボランティアを行うのか」というアンケートに対する回答：

参加した学生は、活動の楽しさからボランティアに参加している。また、引き出しの多い教員となるために学び続ける姿勢として、参加している。

- ・活動の楽しさから、ボランティアに参加している
- ・学び続け、自身が楽しい教員だと思われるよう活動している

○小学校音楽科教育法（H26, H27, H29）：

この講義を受講した学生は、内容のおもしろさや説明の仕方、話の重点の明確さなどにより、授業に楽しさを感じている。今まで鑑賞の授業は「聴く」だけかと思っていたが、他者と交流したり聴くポイントを明確にしたりすることで、主体的に取り組むことができている。授業方法の工夫に楽しさを感じている。また、音楽が苦手でも取り組むことができ、かつ、専門的な知識・技術も身に付くことを実感している。

- ・内容のおもしろさや説明の仕方、話の重点の明確さなどにより、授業に楽しさを感じている
- ・他者と交流したり聴くポイントを明確にしたりすることで、主体的に取り組むことができている
- ・授業方法の工夫に楽しさを感じている
- ・音楽が苦手でも取り組むことができる
- ・専門的な知識・技術も身に付く

○へき地をはじめとする地方における音楽アニメーション：

参加した学生は、観客からの反応や会場の一体感に楽しさを感じている。会場の一体感は、演奏者として自分が音楽を楽しむことで、観客にも楽しさが伝えられると考える。

- ・相互コミュニケーションをすることで、楽しさを感じている
- ・自分が楽しみ、相手に伝えようとすることで、積極性が増大している

主に下線を付した部分からは、授業や活動において楽しさを感じ、知識・技能の習得や以後の学習への意欲が向上につながっていく様子が見て取れる。

5.3 「理解」「上達」「気付き」について

「理解」「上達」「気付き」に関する記述は以下のものである（原文ママ）。

●コミュニケーション実践（学生による記述内容と SCAT 作業）

※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

テキスト（原文ママ）	(1) テキスト中の注目すべき語句	(2) テキスト中の語句の言い換え	(3) 左を説明するようなテキスト外の内容	(4) テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	(5) 疑問・課題
全体を通して、初めてお会いした方々とこのようにコミュニケーションを取るということがいかに難しく、あるいは相手に苦を与えかねないということに気づくことが出来ました。	始めてお会いした方々とのようにコミュニケーションを取ることがいかに難しく／相手に苦を与えかねないということに気づく	初対面の人とのコミュニケーションの取り方、日常生活での気付き	他者との関わり方、勇気、日常生活への活用・関連、危機感	コミュニケーションの重要性	

学生の学習意欲と演習・実践体験の内容についての検討

私も、今日とはとても「気づき」の多い1日だったなと感じました。特に驚いたのが、自分も相手を見るときには、自分の中で良くも悪くも自然とカテゴリーわけして見てしまっているんだなということです。	「気づき」の多い1日だった／特に驚いたのが、自分の中で良くも悪くも自然とカテゴリーわけしてしまっている	驚愕する、心が動いている、新たな自分の発見	新たな発見、主体的に取り組む態度、意欲、自己意識	他者との関わり方、見え方の変化
最初の人を追いかけるゲームでは、自分が気づいていないだけで、他の人が何かを発信しているということに気づかされました。	自分が気づいていないだけで、他の人が何かを発信しているということに気づかされました	気付いていなかったことに目を向ける、他の人に関心が向く	感受の発達、他者理解・関心、新たな発見	他者理解
主人と従者では、教師と生徒の関係性について、改めて気づかされました。	教師と生徒の関係性について、改めて気づかされました	将来のこと、他者との関わり方	将来の展望、人間関係の構築、他者理解・関心	他者との関わり方
午後の部では、トランプを使った活動で、ステータスによる振る舞い方が必要な時とそうでない時があるということに気づくことができました。	ステータスによる振る舞い方が必要な時とそうでない時があるということに気づく	日常生活や社会生活との関連、他者との関わり方、他者の目	日常生活への活用、人間関係の構築、虚栄心	他者との関わり方
色々なカリキュラムから固定観念の怖さがわかりました。	固定観念の怖さがわかりました	社会の通説、恐怖心	偏見、危機感	危機感
自己紹介では、相手のことがわからないことが多いですが、自分の故郷や影響を受けた人を通じてその人のことがよくわかりました。	自分の故郷や影響を受けた人を通じてその人のことがよくわかりました	相手に興味をもつ、他者を通して知識を得る、その人しか知り得ない情報	他者理解・尊重、知識・技術の獲得、新たな発見	他者への関心
体を動かすことそのものが単に難しいというだけでなく、自分と他人はこういう違いがあるんだ、と思いました。	自分と他人はこういう違いがあるんだ、と思いました	自分と他人の違い	客観的視点、他者理解、自己意識	他者との違い
今日の活動の中でやっぱり固定観念から抜け出せて無いところも多くてあるなと気づきました。	固定観念から抜け出せて無いところも多くてあるなと気づき	他者の目、社会の通説	偏見、危機感	危機感
固定観念であったり、わかりきったことであっても改めて体験してみても他の人の考えを聞いてみるとまたそこに新しい発見があるなと思いました。	固定観念／改めて体験してみても他の人の考えを聞いてみるとまたそこに新しい発見がある	他者の目、社会の通説、他の人の意見を取り入れる	偏見、対話的な学び、他者の受容、知識・技術の獲得、思考の幅の広がり	気づき
私が大事にしたいものはこんなものなんだって他の人に言葉にしてもらうと改めて確認することができました。	他の人に言葉にしてもらうと改めて確認することができました	代弁してくれる、気持ちが言葉になる	言語化、感謝	言語化
昨日は普段やってもかもしれない怖いことに気づけたのですが、今日は普段の生活でも使えることを学ぶことができました。	普段やってもかもしれない怖いことに気づけた／普段の生活でも使えることを学ぶことができた	日常生活との結び付き、恐怖心	日常生活への活用、危機感	日常生活への活用
午前中の取り組みの中で、無意識でただ正しいことや思ったことを教えたつもりが子供達の可能性を奪うこともあるということやゲームを通して気づきました。	無意識でただ正しいことや思ったことを教えたつもりが子供達の可能性を奪うこともある／ゲームを通して気づきました	自分の行動が他者に与える影響、あそびの中の学び	他者への関心、危機感、自己意識、自分で学びを得る・発見する、あそびでの学び	危機感
また私の大切なものの紹介の場面で各々にタイトルをつけるということをして、そのタイトルによってより話を客観的に見ることが出来るな、と感じました。	そのタイトルによってより話を客観的に見ることが出来るな、と感じました	自分から切り離して考える	客観的視点	客観的視点
午前の部のジュエチャーゲームでは、元から作ってある場所や雰囲気に入り込むことの難しさや、ちょっとしたことから学級崩壊につながるということに気づくことができました。	元から作ってある場所や雰囲気に入り込むことの難しさ／ちょっとしたことから学級崩壊につながるということに気づく	初対面の人とのコミュニケーションの取り方、将来のこと、自分の行動が他者に与える影響	他者との関わり方、勇気、将来の展望、他者への関心、危機感	他者との関わり方、危機感
発表はしませんでした、空気を読むことについても考えることができました。	空気を読むことについても考えることができました	周りの人のことを考える	協調性、他者への関心	協調性
振り向いてもらう活動では、声をどうやって届けるかについて多くのことに気づくことができました。	声をどうやって届けるかについて多くのことに気づく	声の届け方・発声の仕方	発声の技術・理解	発声の技術
ジュエチャーゲームを通して改めて言葉の重要性を学ぶことができました。	言葉の重要性を学ぶことができました	普段使っているもののへの気づき	日常生活への活用	言葉の重要性
伝える側と受け取る側の両方を体験することで、多くの発見がありました。	伝える側と受け取る側の両方を体験することで、多くの発見	両方の立場を経験する	共感性の高まり	共感性
相手の目を見て話し、相視リアクションをすることで、より会話を有意義なものにすることができました。	より会話を有意義なものにできる	日常生活との関連、コミュニケーションの重要性	日常生活への活用、コミュニケーションの技術の獲得	コミュニケーションの技術の活用
講義全体を通して3日間を通して私は多くのことに気づくことができました。教育現場で起こりうることを簡単な遊びやゲームを通して気づくことができ、面白さを感じるとともに、怖さも感じました。	多くのことに気づくことができました／教育現場で起こりうることを簡単な遊びやゲームを通して気づく	自信につながる、考えることができた、あそびの中の学び	意欲、思考力の向上、自分で学びを得る・発見する、あそびでの学び	危機感、気づき、将来への展望
普段何気なく過ごしているなかでも相手からの発信に気づけないと誤解を生んだり、すれ違いが起こり、上手くいかないこともあるということや改めて確認することができました。	普段何気なく過ごしているなかでも相手からの発信に気づけないと誤解を生んだり、すれ違いが起こり、上手くいかないこともある	日常生活での気づき、他者との誤解	日常生活への活用、危機感	他者との関わり方、危機感
会話の中でも目線や声の大きさ、トーンなど多くの要素が含まれていることに改めて気づきました。それらを上手く用いることによってより深く相手のことを知ることも学ぶことができました。	会話の中でも目線や声の大きさ、トーンなど多くの要素が含まれていることに改めて気づき／より深く相手のことを知る	日常生活での気づき、たくさんの知識や技術が含まれている、他者との関わり方	日常生活への活用、知識・技術の獲得、他者理解・関心、コミュニケーションの有効性	コミュニケーションの技術の活用、他者理解
今回の講義で、あらためて話を聞いてもらえない気持ちを知ることができました。	話を聞いてもらえない気持ちを知ることができた	相手の立場を経験する	共感性の高まり	他者理解
相手の話を引き出すことの大切さや、共感することの重要性がわかりました。	相手の話を引き出すことの大切さ／共感することの重要性	他者との会話の仕方、他者との関わり	他者への関心・理解、会話の技術、共感性の高まり	他者への関心、共感性
今日やった、なりきり紹介は普段から一緒にいるはずの人と組んだはずなのに、全く新しい情報聞き、新鮮さも感じながらも、思い入れをちゃんと受け取って話すことが出来ました。	全く新しい情報聞き、新鮮さを感じ／思い入れをちゃんと受け取って話すことが出来ました	新しい知識や考え方の出会い、他者の気持ちを汲み取り話す	新たな発見、学びの楽しさや意義、他者への関心・理解	新たな発見
相手の話を聞いている内にもっと知りたいことや、気になることを掘り下げていくと、新たな話が出てきて、逆に相手から聞かれている時も、どんどん思い出して話すことが出来ました。	相手の話を聞いている内にもっと知りたい／相手から聞かれている時も、どんどん思い出して話すことが出来ました	他者の話に興味がある、会話を楽しむ、自分の思い出さず気持ちを話す	他者への関心・理解、共感性の高まり、自己認知、人間関係の構築	他者への関心、自己認知
実感を伴った納得がとて大切だと思った。「無知の知」をいままで倫理で、教育哲学で習ってきたが、ここまで「そういうことか!」と思ったのは今回が初めてだった。今回は価値観が大きく変容したと感じた。	ここまで「そういうことか!」と思ったのは今回が初めて／価値観が大きく変容した	納得する、価値観が変わる	言語化、価値観の変容	言語化

●小学校音楽科教育法 (H26,H27,H29) (学生による記述内容と SCAT 作業)

※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

小学校音楽で扱う楽曲を全て行い、鑑賞や評価の観点などさまざまな見方から音楽を見つめ直すことができたからです	さまざまな見方から音楽を見つめ直すことができた	様々な見方をする	多角的な視点	多角的な視点
音楽という教科の良さ、伝え方が分かった	教科の良さ、伝え方が分かった	教科の良いところや自分でやる方法が分かる	教科への興味の向上、将来への展望	教科への興味の向上
方法によって、大きく変わってくるんだということがわかりました。	方法によって、大きくかわってくる	授業をする方法が分かる、様々な方法があることを知っている	将来への展望、幅広い視点の獲得	方法の多様性

先生の説明を受けるまで、トライアングルやタンバリンはしょうもない楽器だと思っていたが、とてもいい音がでる楽しい楽器だということを知った。	トライアングルやタンバリン／しょうもない楽器／いい音／楽しい楽器	小物楽器、下らない楽器、良質で楽しい楽器	楽器の知識	授業を行うにあたって必要な楽器の知識
自分は伴奏ができないけど、ひき方も少しの工夫で、少し簡単にできることが分かった。	伴奏／できない／少しの工夫／簡単にできる	ピアノが不得意、工夫することで弾けるようになる	演奏技能	授業を行うにあたって必要なピアノ伴奏などの技能
授業をつくるにあたって組み立てる方法がたくさんあるのだと学んだ。小学生から感性豊かに授業ができること今後の音楽に対する意識が変わると思った。	方法がたくさんある／感性豊かに授業ができること今後の音楽に対する意識が変わる	授業法の豊富さ、感性を豊かにできるのは音楽	授業内容の工夫、情操教育	主要教科同様に音楽を取り扱うこと、情操教育のための音楽科
「気づかせる」授業の大切さに気がつきました。	「気づかせる」授業の大切さ	気づきの大切さ	問題解決	授業を行う際の姿勢
今日も色々細かな所での工夫を学ぶ事が出来た。普段考えない所も意識してみると授業改善につながっていくと感じた。	細かな所での工夫を学ぶ事が出来た	細かな所での工夫を学ぶ事が出来た	さらなる発展	授業を行うにあたって必要な知識・技能、向上心
日本風の音階に定義があることを知れた。曲を聴いて想像するという内容はやったことがあったが、その理由付がなく小学生の時に何となくふに落ちない思いをずっと引きずっていたが今日解決することができた。	日本風の音階に定義	旋法	専門性	授業を行うにあたって必要な知識・技能
指揮の仕方を習ったことがなかったので、今日の講義で実際にやってみて、少しだけ理解できたので良かった。指導要領の内容の解説を理解できてとてもためになった。指導要領に触れてから、授業をつくと、前より少し考えることが増えて難しく感じた。	指揮の仕方	指揮法	専門性	授業を行うにあたって必要な知識・技能
サイレントリズム打ちの有効性について本時で学ぶことができた。またピアノ伴奏についてもさまざまな表現方法があることを実感することができた。	ピアノ伴奏についてもさまざまな表現方法	伴奏法	演奏技能	授業を行うにあたって必要なピアノ伴奏などの技能
音符のそれぞれの種類の意味を確認することができて良かった。また今回の教材は日本の歴史と関連しているところが多くあり、勉強になった。	音符のそれぞれの種類の意味を確認する／日本の歴史と関連	楽典、日本史との関連	専門性	授業を行うにあたって必要な知識・技能
しゅい曲であっても工夫することで、児童に興味を持たせることができた。	音楽の専門的な知識	楽典	専門性	授業を行うにあたって必要な知識・技能
音楽の学習指導要領のことがわかった。	学習指導要領のことがわかった	授業の基本を知る	知識・理解、専門性	授業を行うにあたって必要な知識・技能
昔はつまらないと思っていた鑑賞も教師の手立てによってはとてもおもしろい物になるということを知ることができた。	つまらないと思っていた鑑賞も教師の手立てによってはとてもおもしろい物になる	つまらなかつた鑑賞も教師の授業法で面白くなる	授業方法の工夫	子どもにとって楽しい授業をするための授業法の工夫
今日は、講義形式の授業があり、指導案について学ぶことができて良かった。	指導案について学ぶことができて	授業の基本を知る	知識・理解、専門性	授業を行うにあたって必要な知識・技能

●へき地をはじめとする地方における音楽アニメーションの試み（学生による記述内容とSCAT作業）※作業後、重複する内容について、紙面の都合で割愛した

実際の現場や子どもと触れ合うことによってその場に合った教え方や考え方があることを知る事が出来て良かったです。教育の現場も様々であり、生徒に合わせて自分の行動を変えていくことの大変さもよくわかりました。	実際の現場や子どもと触れ合うことによってその場に合った教え方や考え方があることを知る事が出来た	学校現場の実態について知り、相手に合わせる	実態に応じた指導、柔軟性	柔軟性、実態把握
とても大きなツアーで時間も限られている中だったので大変なこともみんなあったと思いますが、その分話し合って工夫したり協力し合ったりして全公演を無事に終えることが出来たというのはいすごく達成感がありました。回数を重ねていくうちに感覚をつかんでいくことができ、工夫改善して行くことができました。	話し合って工夫したり協力し合ったりして全公演を無事に終えることが出来たというのはいすごく達成感／回数を重ねていくうちに感覚をつかんでいくことができ、工夫改善して行く	他者との関わりの中での喜び、繰り返し行って学習する	他者との関わり、実践の重要性	達成感、繰り返し行う重要性
相手の心を掴むことについてや、間の取り方、動きなどを直接教えてもらえるのがよかった。即時フィードバックができるのがよかった。	相手の心を掴むことについてや、間の取り方、動きなどを直接教えてもらえる／即時フィードバックができる	コミュニケーションの取り方について学ぶ、学んだことをすぐ実践できる	会話の技術、社会性、知覚、他者への関心・理解、実践の重要性	コミュニケーションの技術
学生のプログラムに入る前に、場を暖めてくれるので、安心して出ることができた。	場を暖めてくれるので、安心して出ることができた	安心して実践することができる	安心できる環境づくり	安心できる環境
演示技術をただ学ぶ・教えてもらうだけではなく、実際にプロの芸人と一緒にコラボすることで、より細かな部分や演示技術を学ぶことができた。	演示技術をただ学ぶ・教えてもらうだけではなく／プロの芸人と一緒にコラボすることで、より細かな部分や演示技術を学ぶ	教え込みではない、本物を知ること自分で感じたり考えたりする	教え込み教育の脱却、思考力の向上、実践の重要性、専門家からの学び	専門家からの学び
音楽を伝えるという方法の多様さを深く知ることができたと思います。	音楽を伝えるという方法の多様さを深く知る	伝える手段がたくさんあることを知る	音楽の可能性、幅広い視点の獲得	伝達方法の多様さ
声の飛ばし方や、物の見せ方などに意識を向けることができるようになってきた。	声の飛ばし方や、物の見せ方などに意識を向けることができるようになってきた	コミュニケーションの取り方について学ぶ	会話の技術、社会性、知覚、他者への関心・理解	コミュニケーションの技術
準備することも多く場当たりで初めてやったりすることもあり、適応力や表現力、コミュニケーション能力が鍛えられたと思う。	適応力や表現力、コミュニケーション能力が鍛えられた	生活する上で必要な力がつく	日常生活や社会生活への活用	適応力の向上
自分の変化について実感は少ないですが、長期間大人数でいることで関係の築かれ方や信頼して任せ合うことを知る事ができました。	関係の築かれ方や信頼して任せ合うことを知る事ができました	他者との関わり方がわかる	人間関係の構築、他者への関心・理解	人間関係の構築
普段自分が楽器をやっている立場にいると、客観的な視点からこの課題については見ることが出来ない／新たな発見	普段自分が楽器をやっている立場にいると、客観的な視点からこの課題については見ることが出来ない／新たな発見	普段の立場から視点を替える、新しく気付く	客観的視点、多面的視点、幅広い視点の獲得	客観的視点
観客の対象に合わせて話からや説明の仕方を変えることの重要さ、特に小学生低学年に対して説明する時に、どのように話したら子どもの頭に？が浮かばず、すんなり理解できる説明や内容、話し方など早川さんや現職の先生方から学ぶことができた。	観客の対象に合わせて話からや説明の仕方を変えることの重要さ／すんなり理解できる説明や内容、話し方など早川さんや現職の先生方から学ぶことができた	コミュニケーションの取り方について学ぶ、本物を知ること自分で感じたり考えたりする	会話の技術、社会性、知覚、他者への関心・理解、実践の重要性、専門家からの学び	専門家からの学び

【SCAT (割愛した部分を含む) から抽出された内容】

●「コミュニケーション実践」(SCAT から抽出された内容)

ストーリーライン (現時点で言えること)	この講義を受講した学生は、他者と自分の違いや共感、相手の立場になって物事を見ることで、他者への関心が増大している。固定観念に捉われている自分に気付き、危機感を感じ、客観的視点をもつよう学習している。さらに、今まで思っていたことが、教員や他の学生に言語化してもらうことで、自己認知ができ学びが深まっている。 技能面においては、発声方法や言葉の重要性など、コミュニケーションを取る際に必要となるものについて関心がある。
理論記述	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と自分の違いや共感、相手の立場になって物事を見ることで、他者への関心が増大している ・固定観念に捉われていることに気付き、危機感を感じ、客観的視点をもつよう学んでいる ・言語化することで、自己認知ができ学びが深まっている ・技能面において、発声方法や言葉の重要性など、コミュニケーションを取る際に必要となるものについて関心がある

●小学校音楽科教育法 (H26,H27,H29) (SCAT から抽出された内容)

ストーリーライン (現時点で言えること)	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義を受講した学生は、教授方法の多様性を知り、教科への関心が増大している。 ・この講義を受講した学生は、自身の経験から音楽に苦手意識をもっていたが、本講義により抵抗感が減り、知識や技能を受容している。また、将来指導者となるため、授業の組み立て方や学習指導要領の理解に興味を示している。
理論記述	<ul style="list-style-type: none"> ・教授方法の多様性を知り、教科への関心が増大している ・自身の経験から音楽に苦手意識をもっていた学生が、本講義により抵抗感が低減したり知識・技能の獲得に意欲を示したりしている ・将来指導者となる立場から、授業の組み立て方や指導要領の理解に興味を示している

●へき地をはじめとする地方における音楽アニメーションの試み (SCAT から抽出された内容)

ストーリーライン (現時点で言えること)	参加した学生は、教育現場の様子を知り、様々な実態の中で柔軟に対応する必要性を感じた。専門家と共演することで、安心できる環境が作られたほか、説明の仕方やコミュニケーション技術の向上といった技術・知識を学んでいる。また、人前で話したり大人数で活動したりすることで、客観的視点の獲得や人間関係の構築について学んでいる。
理論記述	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場の実態を知り、柔軟に対応する能力の向上を目指す ・専門家との共演により、安心できる環境の中で説明の仕方やコミュニケーション技術の向上といった技術・知識を獲得している ・人前で話したり大人数で活動したりすることで、客観的視点の獲得や人間関係の構築について学んでいる

○コミュニケーション実践：

この講義を受講した学生は、他者と自分の違いや共感、相手の立場になって物事を見ることで、他者への関心が増大している。固定観念に捉われている自分に気付き、危機感を感じ、客観的視点をもつよう学習している。さらに、今まで思っていたことが、教員や他の学生に言語化してもらうことで、自己認知ができ学びが深まっている。技能面においては、発声方法や言葉の重要性など、コミュニケーションを取る際に必要となるものについて関心がある。

- ・他者と自分の違いや共感、相手の立場になって物事を見ることで、他者への関心が増大している
- ・固定観念に捉われていることに気付き、危機感を感じ、客観的視点をもつよう学んでいる
 - ・言語化することで、自己認知ができ学びが深まっている
 - ・技能面において、発声方法や言葉の重要性など、コミュニケーションを取る際に必要となるものについて関心がある

○小学校音楽科教育法 (H26, H27, H29)：

この講義を受講した学生は、教授方法の多様性を知り、教科への関心が増大している。自身の経験から音楽に苦手意識をもっていたが、本講義により抵抗感が減り、知識や技能を受容している。また、将来指導者となるため、授業の組み立て方や指導要領の理解に興味を示している。

- ・教授方法の多様性を知り、教科への関心が増大している
- ・自身の経験から音楽に苦手意識をもっていた学生が、本講義により抵抗感が低減したり知識・技能の獲得に意欲を示したりしている
 - ・将来指導者となる立場から、授業の組み立て方や指導要領の理解に興味を示している

○へき地をはじめとする地方における音楽アニメーション：

参加した学生は、教育現場の様子を知り、様々な実態の中で柔軟に対応する必要性を感じた。専門家と共演することで、安心できる環境が作られたほか、説明の仕方やコミュニケーション技術の向上といった技術・知識を学んでいる。また、人前で話したり大人数で活動したりすることで、客観的視点の獲得や人間関係の構築について学んでいる。

- ・教育現場の実態を知り、柔軟に対応する能力の向上を目指す
- ・専門家との共演により、安心できる環境の中で説明の仕方やコミュニケーション技術の向上といった技術・知識を獲得している
- ・人前で話したり大人数で活動したりすることで、客観的視点の獲得や人間関係の構築について学んでいる

主に下線を付した部分からは、体験や授業による価値観の変容、技能の向上や知識の増加、理解の深化が見て取れる。

5. 4 「課題」について

「課題」に関する記述は以下のものである（原文ママ）。

●コミュニケーション実践（学生による記述内容と SCAT 作業）

テキスト（原文ママ）	(1) テキスト中の注目すべき語句	(2) テキスト中の語句の言い換え	(3) 左を説明するようなテキスト外概念	(4) テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	(5) 疑問・課題
だからこそ人との関わりで大切なコミュニケーションについて学ぶ必要があると思いました。	人との関わりで大切なコミュニケーションについて学ぶ必要がある	自分事として捉える、意欲の向上	危機感、主体的	コミュニケーションの重要性	
今回の講義で偏見や先入観、固定観念など自分の中で凝り固まっていることが見えてきて、まずは自分が改善していかなければならないと感じました。	自分の中で凝り固まっていることが見えてきて／自分が改善していかなければならない	捉われているもの、自分自身を見つめ直す	固定観念、自己反省、危機感、価値観の変容	価値観の変容	
教師は人と関わってコミュニケーションを交わす仕事です。子どもたちの未来を導いたり、教えたりする教師が子どもの心や可能性の芽を摘み取ってしまふことは気がつけなければなりません。	教師が子どもの心や可能性の芽を摘み取ってしまふことは気がつけなければなりません	教師が子どもに与える影響に注意する	他者への影響、思いやり、危機感	危機感、子どもに与える教師の影響	

●小学校音楽科教育法（H26,H27,H29）（学生による記述内容と SCAT 作業）

教師が苦手だからといって避けるのではなく、子どもと一緒に学んでみるという姿勢を持ち、授業をすることが必要だと思う	子どもと一緒に学んでみるという姿勢	子どもとともに成長する教師	学び続ける教師、学びに向かう姿勢	学び続ける教師	
音楽はあまり5教科（筆者注：国語・数学・理科・社会・英語）の勉強するような教科と結びつかないと思っていたが、今回のように話すことができる教科（筆者注：難しい歌詞を現代語訳したり絵で説明したりすること）は大事にすべきだと思った	5教科、結びつかない、大事にすべき	5教科と同様に扱うべき	5教科との垣根	5教科同様に音楽を取り扱うこと	5教科との違いは
もっとよく教材を見ようと思った。	もっとよく教材を見よう	教材の理解を深める	価値観の変容、教材研究の意義	教材の理解	

●へき地をはじめとする地方における音楽アニメーションの試み（学生による記述内容と SCAT 作業）

どのような地域でも同じように子どもたちがいることには変わりなく、そういうところこそ、子どもたちがさらに生き生きと生活したり楽しく学んだりするためのものが必要だと思いました。	子どもたちがさらに生き生きと生活したり楽しく学んだりするためのものが必要	教師が子どもに与える影響に注意する	他者への影響、危機感	危機感、子どもに与える教師の影響	子どもが生き生きと生活するためにはどうしたらよいか
普段から話したり関わったりすることでその人のことを知り、いざ何かをするという時にその人のことをわかった上でできるので、普段の何気ない関わりも大事にすべきだと感じました。	普段の何気ない関わりも大事にするべき	コミュニケーションの重要性	他者との関わり方	コミュニケーションの重要性	
継続して行えばどのくらい身につくのか観察しつつ、子供が飽きないような工夫を加えながら改良していくことが今後の課題だと思った。	子供が飽きないような工夫を加えながら改良していくことが今後の課題	将来への活用、やるべきこと	将来の展望、問題意識	児童が飽きない工夫	

【上掲の SCAT から抽出された内容】

ストーリーライン（現時点で言えること）	アンケートや感想から、価値観が変容し、危機感をもつようになったことがわかる。特に、自身が影響を与えかねない子どもや他者が関わる際、学びに向かう姿勢を省みている。
理論記述	・自信が影響を与えかねない子どもや他者が関わる際、危機感を持ち、学びに向かう姿勢を省みている ・課題を発見した際、以前とは価値観が変容している
さらに追求すべき点・課題	・子どもが生き生きと生活するためにはどうしたらよいか

アンケートや感想から、価値観が変容し、危機感をもつようになったことがわかる。特に、自身が影響を与えかねない子どもや他者が関わる際、学びに向かう姿勢を省みている。

- ・自信が影響を与えかねない子どもや他者が関わる際、危機感を持ち、学びに向かう姿勢を省みている
- ・課題を発見した際、以前とは価値観が変容している
- ・△子どもが生き生きと生活するためにはどうしたらよいか

主に下線を付した部分からは、他者との関わりに際する自分自身の課題意識をもった様子が見て取れる。

6 学生の学習意欲と演習・実践体験の内容についての関連

〈5〉節の分析結果は、〈2〉および〈3〉節において整理したことを裏付ける内容を見て取ることができる。それらのことを踏まえると、大学における授業や活動を構成する際には、大学における学習に学生が目的をもっている場合は役立つ授業を行うこと、目的をもっていない場合は楽しい授業を提供すること、断片的な知識を教授するのではなく学生が価値観や物事の見え方の変容を実感できるようにすることの3点を考慮する。そのことで、学生の学習意欲を高め、内容を身に付けねばならない科目については積極性を、資質を養っていくことに資する活動等については自律性を高めながら学習することに近付ける可能性があることが示唆された。また、学習や活動を行うのは一個の人間であるその学生であって、それに対しては、教員が総合性や教科横断的な視点をもって指導に当たることにも配慮すべきであると考えられる。このように、先行研究の知見を総合して、よりよい大学の授業を構成していくことにつなげることが望まれる。

註

- 1) 溝上慎一「大学生の学習意欲」『京都大学高等教育研究』2, 京都大学, 1996, pp.184-197.
- 2) 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」平成24年8月28日, p.9.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf [R1.6.26.9:26 閲覧]
- 3) 中央教育審議会「2. 新しい学習指導要領等が目指す姿」初等中等教育分科会(第100回),
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm [R1.6.26.9:31 閲覧]
- 4) 前掲書1), p.184.
- 5) 前掲書1)。
- 6) 伊田勝憲「教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ像の検討—自我同一性、達成動機、職業レディネスと課題価値評定との関連から—」『教育心理学研究』51(4), 日本教育心理学会, 2003, pp.367-377.
- 7) 浅野志津子「学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程—放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から—」『教育心理学研究』50(2), 日本教育心理学会, 2002, pp.141-151.
- 8) 芳賀均・早川元啓・久保允人「音楽におけるアウトリーチが教員養成に与える効果と演芸を取り入れる試み」『へき地教育研究』73, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター, 2018, pp.21-35.
- 9) 畑野快・溝上慎一「大学生の主体的な授業態度と学習時間に基づく学生タイプの検討」『日本教育工学会論文誌』37(1), 日本教育工学会, 2013, pp.13-21.
- 10) 吉澤隆志・松永秀俊・藤沢しげ子「授業形式の違いが学習意欲に及ぼす効果について—グループディスカッション授業の効果—」『理学療法科学』24(3), 理学療法科学学会, 2009, pp.369-374.
- 11) 安東輝次『持続的な学びのための大学授業の理論と実践』関西大学出版部, 2018, pp.93-94.
- 12) 高浦勝義「『教科』概念の見直し・再編問題」『個性化教育研究』5, 日本個性化教育学会, 2013.
- 13) 高浦勝義『総合学習の理論・実践・評価』黎明書房, 2000.
- 14) 評価の観点が各教科によって異なっており、そのことが合科的学習の障害になっていることが指摘されている(芳賀均・森健一郎「音楽科における評価の観点に関する一考察—教科横断的な学習としてのSTEAM教育実践への布石—」『北海道教育大学大学院高度教職実践専攻研究紀要』9, 北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻, 2019, p.179.)。すなわち、学習や活動を行うのは一個の人間であるその学生であるが、学問の内容のみを基準にすると、一人の学びを丸ごと捉えることができないといえる。
- 15) 芳賀均・山内芳春・佐藤友夏「学生の小学校音楽授業に対する意識に関する一考察—抵抗感の低減と意欲の向上を目指した教員養成課程の講義づくり—」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』70(1), 北海道教育大学, 2020, pp.305-318.
- 16) Steps for Coding and Theorization: 大谷尚「4ステップコーディングによる質的データ分析手法SCATの提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究紀要(教育科学)』(第54巻第2号)名古屋大学大学院教育発達科学研究科, 2008年, pp.27-44.

[附記1]

本稿は、全国大学音楽教育学会第35回全国大会《札幌大会》におけるラウンドテーブル「これからの学生指導（意欲を引き出す取り組み）」における提示資料「学生の学習意欲と活動内容の関連についての検討（芳賀均）」、および、発表を基にして再構成したものである。

[附記2]

本研究および作稿において、学生のコメント等の記述資料のSCATによる分析を大野が、それ以外については芳賀が担当した。

(芳賀 均 旭川校講師)

(大野 紗依 旭川校大学院生)